

# 宇宙

スペースポート紀伊からの  
打ち上げイメージ  
(提供:スペースワン社)



スペースポート紀伊からの  
打ち上げイメージ  
(提供:スペースワン社)



## 「最南端」から「最先端」のまちづくりへ ロケットの町 南紀串本町

日本初の民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」。  
商業宇宙輸送の拠点として、2023年2月末に初号機の打ち上げを予定する。  
立地は本州最南端の町、和歌山県串本町。  
橋杭岩など豊かな観光資源で知られ、  
現在は「宇宙」をテーマにした町づくり、  
南海トラフ地震に備えた「防災」の町づくり等を展開している。  
そのムーブメントを追った。



打ち上げイメージ

### 宇宙ビジネスの 拡大を視野に、 夢広がる 新たな町づくりを展開

太平洋に突き出した潮岬<sup>しほのさき</sup>、雄大  
なりアス式海岸など、景勝が連なる  
串本町。観光・漁業・果実栽培などで栄えてきた



が、少子高齢化の波にあらがえず人口自然減の進  
行が続く。起爆剤として2017年9月、和歌  
山県と共に「スペースポート紀伊」誘致に挙手し、  
約1年半後、同町田原地区が建設予定地に決定  
した。①地元の理解・協力が得られ、②地形など  
の立地条件が合い、③輸送アクセスのよいことが  
選定理由となった。

スペースポート紀伊は、キャノン電子株式会社、  
清水建設株式会社などが出資するスペースワン株  
式会社が建設、運用する。契約から打ち上げま  
での「世界最短期間」と、打ち上げの「世界最高頻  
度」を売りポイントとし、小型ロケットで人工衛  
星を打ち上げる。希望時期に低コストで発射でき  
る小型ロケットのメリット

は大きく、災害等の観  
測・通信のほか、収穫  
期の分析など農業、漁業  
への利用が見込まれる。ゆくゆくは、年間20機の  
打ち上げが計画されている。

和歌山県は、10年間で670億円程度の経済  
効果を試算する。建設投資・発射場運営効果に  
加え観光資源としても期待し、中長期的には宇  
宙関連産業の集積を見積もる。公立高校として  
全国初の「宇宙探究コース(仮称)」を県立串本古  
座高校に開設し、全国募集の生徒を2024年  
度から受け入れる予定。本州「最南端」の町はロ  
ケット「最先端」の町へ……。前例のない挑戦が注  
目を集めている。



道の駅「くしもと橋杭岩」で販売  
されているロケットソフトクリーム

串本町オリジナル  
ロケットロゴマーク



### 打ち上げの公式屋外見学場や 展示・8Kシアターも設置予定



串本町役場  
ロケット推進室 班長  
宮本 宏保さん

2020年度に町独自の  
ロケットロゴマークを作成  
し、約1年半で町内36団体  
52品に申請をいただしていま  
す。漫画『宇宙兄弟』とのコラボグッズも人気  
です。ロケットは当初、他地域の工場で製造  
される予定ですが、いずれ町内で開発・製作  
されることを期待しています。串本古座高  
校「宇宙探究コース」卒業生の町内就職先も  
広がるでしょう。打ち上げに向け、町内と  
那智勝浦町に、各2500人を収容する公  
式屋外見学場を設ける計画です。また、旧  
古座分庁舎一階にロケット関連の展示・図書  
コーナー、3階に8Kシアターを整備し、打  
ち上げのない日も宇宙を身近に感じられる  
教育の場とします。初号機が飛べば地域も  
一層の盛り上がりを見せるでしょう。

\*2022年8月、取材時数値

串本町内で開発された  
ロケットグッズ

「串本の水」をPR(左からロケット  
推進室・東田主事、宮本班長、産  
業課・阪本主査)



ロケット、橋杭岩、  
潮岬灯台を  
あしらったPR用大漁旗



ロケット推進室がある  
串本町役場旧古座分庁舎。



# 観光

## 古座川町

串本から大島へ約850mにわたり、大小40余りの岩柱がそそり立つ「橋杭岩」。付近に道の駅があり、2階の展示室で成り立ちなどについて詳しく学べる。



テントがこんなに小さい!

古座川町の「一枚岩」。高さ約100m、幅約500mの巨岩が古座川の河岸にそそり立つ。

世界で初めて人工繁殖に成功したウミガメの赤ちゃんが大人気の「串本海中公園」。水族館のほか、世界最北のサンゴ群落が見学できる海中観光船、海中展望塔も備える。



# 本州最南端

1.明治6年築、歴史的価値が高い洋式の潮岬灯台。太平洋の大海原と水平線、海岸の奇岩・怪岩が望める。2.灯台の展望台に至る68段のらせん階段。3.往年の意匠が趣深い、灯台内部への玄関口。4.灯台のやや東、「望楼の芝」に立つ本州最南端碑。かつて海軍の望楼(物見櫓)があった。



## 命の道「すさみ串本道路」など 風水害、地震への対策が進む

串本市街を南下し潮岬に入ると、風が強くなり「本州最南端」「本州唯一の亜熱帯地域」を実感させる。やがて断崖に立つ潮岬灯台が見える。風光明媚な風景はTVでもお馴染みだが、「台風銀座」と例えられるほど台風通過が多い。

串本町から、西に隣接するすさみ町までのエリアでは、国道42号が唯一の幹線道路。だが、海岸に沿って急カーブが多く、大雨や台風の際に被災するリスクが高い。南海トラフ地震の津波にも備えて、山手に「すさみ串本道路」が建設されており、2025年春に開通する見通しだ。串本町は「越波などで通行止めになり、たびたび移動確保できない状態になる。開通すると津波発生時の一時避難場所として使え、救命や救急、救援物資の輸送等にも役立つ」と期待している。

すさみ串本道路は、近畿自動車道紀勢線(田辺〜すさみ)と連続し、沿岸部において大阪府と和歌山県南部地域を結ぶネットワークの一部になる。開通の年には大阪・関西万博が開催され、観光面でも実効力がありそうだ。

## コロナ禍のマイナス要素を反転、自然体験型の修学旅行が盛況

長引くコロナ禍が観光地・観光業に打撃を与えるなか、串本町は2020年と21年、修学旅行

の受け入れ実績を以前の約4倍から5倍まで伸ばした。京都や奈良、広島、東京といった都市部の修学旅行が敬遠され、自然体験アクティビティを充実させてきた串本町の教育旅行誘致が功を奏した。オープンエアでのびのび体験する古座川のカヌー下り、海水浴場のシーカヤックなどが活況を呈しているのだ。

しかしながら、他の観光地同様、全体としての入り込み客数は大幅減。アフターコロナの巻き返しをどう図るのか。

「我々が教育旅行に力を入れているのは、修学旅行生たちが将来リーダーとなってくれることを期待しているから。串本町、近隣市町村にも大自然が生んだ教育・観光資源が豊富にある。10市町村にまたがる『南紀熊野ジオパーク』として連携して取り組む」と産業課の阪本祥主査。南紀熊野ジオパークは、プレート沈み込みにより3種類の大地が入り組む希少なエリアだ。たとえば串本町には、橋の杭のように海上に列をなす橋杭岩、世界最北のサンゴの海(ラムサール条約登録)などがあり、北隣の古座川町では日本最大級の一枚岩が見学できる。

また、串本町大島のトルコ記念館では、1890年(明治23年)のトルコ軍艦「エルトゥールル号」の遭難事故と、日本・トルコ交流の歴史が学べる。そして、これから始まる「ロケット観光」は宇宙・科学教育に密着した要素を持っている。今後も、串本町では未来を見据えた町づくりが展開する。



◀トルコ記念館周辺の案内

～エルトゥールル号遭難事故と恩返し～  
**「私たちはエルトゥールル号の借りを返しただけです」**

1890年(明治23年)、トルコ軍艦エルトゥールル号が串本の大島沖で台風に遭遇した。船内587名が殉職、生存者はわずか69名。大島島民は不眠不休で救助し、遺体を手厚く葬った。そして昭和の時代。イラクから、イランへの無差別攻撃が宣言されたとき、トルコから救援機が駆けつけ、当地の日本人215名を脱出させた。後に、駐日トルコ大使のネジアティ・ウトカン氏は「エルトゥールル号の借りを返したただけだ」と語った。遭難事故は痛ましい悲劇だが、両国交流の歴史はそこに始まり、今に受け継がれている。

**日土友好**

5.6. エルトゥールル号の資料を中心に展示する「トルコ記念館」。屋上の展望台から遭難現場と、今も船舶が往来する太平洋が望める。7. 遭難者の遺体埋葬地に立つ「トルコ軍艦遭難慰霊碑」。

**防災道の駅「道の駅すさみ」** すさみ町

2021年、国土交通省により選定された「防災道の駅」(全国39駅)の一つ。高台に位置し、災害時に自衛隊などの救援活動拠点となるほか、近隣小学校へ避難した住民用の非常用発電機や防災備蓄倉庫を設置。消防団も移設し、平常時は屋上展望台として活用されている。

一般国道42号「すさみ串本道路」 2025年春開通予定!

和歌山県東牟婁郡串本町サンゴ台から同県西牟婁郡すさみ町江住に至る19.2km区間、従来の国道42号と並行し高台に新設される。そして、現在建設中の「串本太地道路」、開通済みの「那智勝浦新宮道路」と接続し、近畿自動車道紀勢線のネットワークを構成する。

南海トラフ地震発生時には津波により、国道42号(すさみ串本道路並行区間)の最大6割が浸水すると予測されている。

国道42号の約6割が浸水のため通行不能